



北海道方面

静内の碧薬橋開通式

日高地方拓殖上重要な地點にある静内町地内の碧薬橋開通式は十二月七日午前十時より同橋上に於て厳かに執行された。

この日は冬の空に稀な好天氣で併かも多年待ちに待つた架橋の宿望が今や眼の前に達せられたので同地方一帯欣喜雀躍して之を迎へ各戸日章旗を掲揚して祝意を表し、同地方草分時代の老翁媪をはじめ其の子孫等手を繋ぎて新橋上に集まり聖世の徳澤を

稱して互いに賀辭を交はし歡喜は爆竹の音と共に天地に満ちた。

中央祭壇の周圍に六百餘名の參列員着席するや、神職等の奏樂裡に降昇神の儀、供饌の儀、玉串奉奠等順次進行し、次で祝辭朗讀、祝電披露等ありて式を終り、正午第二の號報を合圖に當日の呼びものたる三夫婦池田辰藏氏一家の通り初めに移り、萬歳の聲各所に起る、午後一時芽出度き通り初めも了し次で同十分より祝賀會は開かれ主催者の挨拶、來賓の祝辭、記念樹の植栽等の後開宴、多數校書の斡旋にて盃を重ね午後三時碧薬橋の開通萬歳を三唱して盛會裡に散會した。

岩見澤の納内橋開通式

地方多年の熱望であつた準地方費道岩見澤納内線の音江納内間石狩川に架設の納内橋は本年一月七日國費を以て起工以來着々順調に進み去る十五日竣工したので十九日午前十一時より現場に於て開通の祝典を舉げた、式は型の如く降昇神の儀等滞りなく午後一時終了し同一時半より納内小學校で納内音江兩村共催になる祝賀會は開かれた席上で荒川村長は下記の如き感喜溢るゝ挨拶を述べた本日出度開通致しました納内橋は賞納内村三丁目先石狩川舊渡船場附近で納内音江の兩村に通ずる準地方費道線に架設されたもので、納内音江の兩村民は勿論、接續町村たる芦別神居の各村民が多年熱望して居た所でありまして大正十四年以來數回其筋に請願して來たのであります幸ひ關係官廳並びに道路改良會の御斡旋により本請願の要望は容認されて財政逼迫の折柄にも拘らず本年一月工を起し遂に本日開通

の慶びを見るに至りまして歡喜に勝へない次第であります。

本地方は開拓に着手以來既に四十年を経過して居るのであります。未だ交通文化に浴する事遠く、殊に石狩川貫流のため晉江、神居、芦別の各村に於ける多量の農産物運搬に渡船を用ゐざれば如何とも外に道なき不利不便の状態で、殊に神居村の御料林面積の如き六千四百餘町歩といふ廣大なもので、中には豊富な木材の生産等あるも従來は冬期間水滑を利用して搬出する外に方法が無つたのであります。然るに今同本橋の架設が完成されました。是迄の如き不便不利は昔語りとなり一切擧げて交通文華の有望なる轉向に掉したるのみならず地方の開発に資する所甚大なるものあるを認る。する次第であります。尙師團にも接近して居る關係から随つて軍事上に重要視さるべきは異論なき所でありまして即ち軍事上にも地方開發上にも、經濟上にも其他幾多の利便と効果とを齎らすこと勿論であります。

地方通信

て關係各町村民は擧げて聖世の徳澤に潤つた次第であります。茲に謹んで關係諸公並に道路改良會の御盡力に對し滿腔の感謝を表すると共に將來本橋の利用價値を一層大ならしむる爲め維持等に就ては充分なる注意を俱に心掛る決心であることを表明して御挨拶と致します。

東 北 方 面

匡救事業と松濱道路

鹽釜松島間の産業開發と遊覽者誘引策上最も有効なりとして、曩に湯澤知事時代に十四萬圓を計上し牛塚知事の仙臺鹽釜間のドライブ道と連絡せしめやうとしたが其の後事業實施に至らず却つて七ヶ濱めぐり道路及大鷹森への遊覽道路が共に出現するに其中間を結ぶ鹽松道路が今に眼鼻もつかず地元民は遂に發憤し、昨今は松島鹽釜漁業組合等が奉仕作業で出動し、汽艇組合の如きも壯觀山の新名所道路を開鑿する等續々

促進實施に努力して居る、松島より鹿臺間の産業道路も近く貫通するに至つたので松島町では、此の際匡救道路事業として此の線に結ぶ松島霞浦より利府濱田に到る産業道路を開鑿するに決し、着々準備を進めて居る。

築館栗原の工事進捗

宮城縣築館に於ける匡救土木事業は順調に進むで居る、金田栗原の縣道工事は既に八分通り進み十二月中に完成する豫定で、栗原郡萩野村は七分通り、同郡清瀧村と鷹澤村及び文字村は約五分、一迫町及尾松村と鳥矢崎村は四分通り、岩ヶ崎町と大岡村、花山村及栗駒村は三分で他の各町村は平均二分五厘程度である。町村工事も漸次進捗し鳥矢崎村と大岡村が既に七分、志岐姫村及び長岡村と有賀村は六分、澤邊、金森、萩野、鷲澤等も五分、若柳、高清水、藤里、姫松、尾松等の各町村も四分の進行を見て居る。

中江道路の大改修

桃生郡北村多年の宿案たる風越峠改修は愈々着手され農閑期に於ける失業農家の男女を出役せしめて居る、風越峠は險阻にして荷馬車、人畜等の往還著しく阻害され、俵米を積んだ荷馬車などは常坂の中途で支障を生じ、木村老村長などは見るに忍びずとなし、外套や帽子等かなぐり捨て、荷馬車の後押しをする光景は、北村の珍風景と稱されて居たのであるが今回の改修で絶頂より平均十一尺の勾配を緩和するもので自轉車を踏んでも自由に走破出来る程度に改修する譯である。石巻別街道から分岐した所々中江道路も有効幅員十八尺に擴張するため既に敷地買収の交渉を進めてゐるが、關係地主も待望久しき此難道路が更生されると言ふので喜んで買収に應じて居る、同村會の決定した買収価格は田一坪八十錢、山林十五錢、畑地三十五錢といふ一大奉仕を行ふといふ事になつたのであるが、

大分部進むで買収契約に調印して居る。

北越方面

産業道路は救ひの神

新潟縣三島郡の中部に横たはる中永峠の大山脈の横つ腹に穴をあけ、驚く勿れ隧道四百間が今度三島郡唯一の良道となるべき縦貫線である。其使命は長岡市と出雲崎の一帶海岸地が尤も接近し來往に便利となる救ひの神で産業の開發にも亦一大革新を招致するものである、これは曩年改修に着手して以來遅々として捗らず爲めに萬年工事の異名を稱されて居つたが、今回救農土木工費を加へて中永峠の西部西越村大字小笠谷の入口より人家の末端まで改修するもので沿道民は勿論附近一帶この中永線を利用する圈内では全通の日を指折り待ち焦れて居る。

關東方面

戸田橋開邊式の賑ひ

國道九號線荒川筋（東京市板橋區志村連根町北岸より埼玉縣北足立郡戸田村南岸）に架換中であつた戸田橋工事が竣工したので十二月二十四日午前十一時から同橋北詰で開通式が嚴かに執行された、同午前十一時半山本内相代理の唐澤土木局長及び田中事務官一行の到着を待つて式は開始され、神職等の奉仕にて修祓、降昇神の儀、獻饌神詞奏上、玉串奉奠等型の如く行はれ、次で香坂東京、福島埼玉兩府縣知事の式辭を福島埼玉縣知事朗讀し、田中埼玉縣土木課長病氣のため主席代理技師の工事報告、内務大臣代理唐澤土木局長の告辭、道路改良會長代理都筑幹事の祝辭、朝倉東京、横川埼玉兩府縣會議長、東京市長代理近土木局長地元區二十五町村長總代飯島戸田町長以下多數の祝辭祝電の朗讀ありて式を終り、愈々五百四十五間の長橋上を目度き渡り初めとなるや萬餘の群衆押し寄せて身動きも

ならざるに至り警戒部の警官、在郷軍人團消防隊等の手に依りて漸やくに整理し午後二時神職数名の修祓を先導として唐澤内務省土木局長、眞田内務省東京土木出張所長香坂東京府知事、福島埼玉縣知事、田中事務官、都筑幹事、小林埼玉縣内務部長副見同縣警察部長、來島東京府土木部長、近東京市土木局長、朝倉東京府會議長、横川埼玉縣會議長、柴山埼玉縣地方課長、仁田埼玉縣道路主事、高澤東京府道路主事、春木内務技師、兵頭埼玉縣技師、枝川土木事務官、松居埼玉縣技師、小堀浦和土木事務所長、板橋區長飯島戸田町長以下二十五箇町村長府縣市區町村會議員其の外數百名の参列者及び兩岸小學校の優良生一千名の旗行列、神輿、獅子舞等渡り了つたのは午後二時半であつた、それより同河川敷内に特設された天幕内で飯島協賛會委員長の挨拶に依り祝賀會は開かれた、之れに對し來賓側代表として香坂東京府知事謝辭を述べ、午後三時和氣霽々裡に散會した、尙右架橋に

特別盡碎せる人々數十名を大宮町八重垣に請招して慰勞會を催し祝賀協賛會副委員長板橋區長の挨拶あり、之に對し内務省東京土木出張所眞田博士の謝辭あり、それより香坂東京府知事の埼玉縣内務部長時代の懷舊談に對する福島現知事の比較談都筑幹事の我國の道路改良事業の推移、上原學務部長の道路改良に對する所感等連綿として盡きず橋本土木事務官の劍舞を最後として午後七時半散會し、別に同橋の工事關係者慰勞會は同七時よりまた同所に於て行はれ一年有伴苦心の思ひ出話しに盃を重ね互いに手を握りて本日の開通を祝福する喜びの叫びは木枯らし吹く大宮公園の森に早くも春の訪れた感興深きものであつた。

告 辭

戸田橋架換工事成ルヲ告ケ茲ニ本日ヲ以テ竣功式ヲ舉ケラル邦家ノ爲寔ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ
本橋ハ九號國道荒川ニ架セラレ其ノ位置東京埼玉兩府縣ニ跨ル帝都北門ノ要樞ヲ占ム

ルニ拘ラス舊橋ハ架設年既ニ久シク構造亦現時ノ重量交通ニ添ハサルモノアリ府縣當局思フ此ニ致シ曩ニ架橋ヲ計畫スルヤ政府又之ヲ助成スル所アリ起工以來三年有半功程着々其ノ歩ヲ進メ今仍チ堅牢宏壯ナル新橋ノ成ルヲ見ル念フニ今後之ニ依リテ交通更ニ一段ノ利便ヲ加ヘ文化ノ開發産業ノ進展ニ寄與スル亦極メテ大ナルモノアルヘシ冀クハ將來之カ維持管理ニ努メ以テ長ク其ノ利用ヲ完フセラレント一言以テ祝辭トス

昭和七年十二月二十四日

内務大臣 男爵 山本 達雄

祝 辭

國道九號線ニ架ス戸田橋本日ヲ以テ架換竣功ノ式典ヲ舉ゲラル
抑々本橋ハ帝國ノ幹線道路タル中山道ニ在リテ東京埼玉兩府縣ヲ連繫シ最も重要ナル地位ヲ占ム近時發達シタル高速車輛ノ増加ニ隨ヒ架換ノ必要ヲ感ズル茲ニ年アリ今乃本橋ノ成ルヲ見邦家ノ爲メ洵ニ欣慶ニ勝

へサルナリ翼クハ官民一致克ク之カ維持管理ニ力ヲ致シ以テ長ヘニ其ノ効果ヲ完フセラレシム事ヲ一言所懐ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和七年十二月二十四日

道路改良會長 水野鍊太郎

東海方面

名古屋の大可動橋成る

愛知縣名古屋港の棧橋際から從來小汽艇で連絡して居た名古屋市兩築地は兩三年來交通量増加して汽船連絡では到底用を辨じ兼ねるに至つたので縣は豫ねてより架橋工事に着手して居つたが歳末に至り愈々竣成したのであるが橋下は船舶の航行に自由ならしむる爲め一端を可動ハネ橋としてあるので名古屋の南港支關に新景觀を添へるに至り見物が押し寄せて居る。

中國方面

明石土木事務所の活動

本年度に施行される明石土木事務所の管内を覗くと、明石、加古兩郡の土木事業は匡救土木事業が十萬圓に上り明石郡樫谷、平野、垂水、魚住、大久保等既に起工し植谷村の如きは三分の進工である外に縣營の道路改良工事が十一箇所であつて此の總工費十萬圓で明石郡江井ヶ島地内、大久保岩岡間玉津村の三木明石線等も此中に含まれて居る、尙ほ産業開發道路として高砂町を中心に尾上、新井間の大改修工事があり用地費潰れ地及物件移轉補償費等も三萬圓餘に達し、又延長二百五十間に亘る加古川の架橋工事もある等地方近來の大工事が重なり事務所は繁忙を極めて居る、鋪裝工事は明石市の中心商店街東西本町から中町の間は十二月六日に着手して十五日に完成し、引續き高砂町宇治電驛前から南へ直線に走る道路に着手し十二月二十五日迄に日本石油會社道路部の手で鋪裝完成の筈である。

網干の海濱道路認可

網干町發展の縣案として海岸道路築造が多年の間、同地の問題となつて居たが、今同の内務省救済土木事業費をもつて之が實現を圖るべく山本町長以下數同縣に申請し此の程其認可を得た、同道路は役場前より字味岡の海濱に出づるもので其の延長七百二米、幅員四米で昭和八年二月未迄に完成せしむる豫定であるから、夏期海水浴季節には、自動車で自由に往來することゝなり、土地繁榮の上策として大いに期待されて居る。

國縣道の改修進捗

島根縣では産業開發を計るため縣道の改修を計畫し、昭和七年度に於ては今市杵築線、大田三次線、川本壬生線、津和野加計線、安來三成線、松江江角線を完成し、残るは益田岩國線、益田加計線、温泉津可部線の三線が順次進工の豫定となつて居る、縣土木課では八年度より更らに五箇年繼續事業として主要路線十線の改修を第二

期事業として施行すべく總工費百十二萬圓を計上し八年度に於ては二十一萬圓で改修を行ふ事になつた。また米子市と大社間の國道大改修實施も迫まつて居るが新大橋と神立橋の改築期は多少遅れる模様である。

海田市國道工事の活況

附近住民待望の軍用道路、廣島、吳國國道第一期工區の海田市矢野間工事は内務省國道工事海江田市場の手で進捗中であるが、此の路線工事は盛土採掘地の關係上、海田市矢野兩町方面から、それ／＼路線の中央に向ひ工事中で、既に全土工の約六割強を竣つて居る、本工事は昨昭和七年九月起工以來實際の出勞日數は八十日餘りであるに拘らず、此の進捗率を見るに至つたので、八年二月中に大體の工事は終了するものと豫測されて居る。尙これまでは四十臺のトロッコで出勞土工が運搬して居たのであるが、十二月中旬よりガソリン機關車を運轉して土砂運搬に充當する筈で既に其の

レールの敷設替も終り一切の準備も成つたから之れに依りて尙一層竣工を促進せしめる事であらう。

下關驛垢田峠間改修

下關市内の縣道東下關驛より垢田峠に至る延長二千九百九十六米の改修は多年の懸案となつて居たのであるが最近の交通狀況は全く行詰りの状態となり、遷延をゆるす能はざる状態になつて來たので縣當局も八年度事業として其の一部改修を計畫したるに對し附近住民は其の全部を改修するやう猛烈に要請して遂に現状實地踏査の結果總工費四十八萬圓五ヶ年繼續事業として改修するに決し下關市内約三千米の區間を幅員十一米乃至十八米突に擴張し勾配等の改修も行ふ筈である。

九州方面

縣道改修續々進捗

福岡縣下に於ける縣道改修工事は續々進捗し既に竣工せるものも十數線に達して居るが七年度事業中尙未着手であつた左記路線も歳末より新春にかけ相次で改修に着手し三月上旬迄に全部竣工の豫定である。

福岡行橋間重要縣道（飯塚市二瀬町境より飯塚市吉原町中央停留所附近に至る路線）飯塚久留米線重要縣道（飯塚東町より市役所横道路及市役所横より吉原町に至る區間）芳雄驛附近より熊ヶ畑間縣道及び宮線田幸袋。

中津市本町線の鋪裝

中津市は曩に國道三號線殿町筋を鋪裝して以來頓に道路改良の必要が高調されるに至り、現に中津驛前より豊前銀行前に至る本町通りの鋪裝工事も歳末に完成して新年を迎へる譯なので、之を見た中津銀座の稱ある新博多町では舊臘末に至り町會を開いて「新博多町通道路鋪裝促進期成會」を組織して勢溜角清水理髮店前より魚の辻に至

も區間を一萬圓以内でアスファルト舗装を施工するに決した。

泉都十萬圓の舗装着手

世界の泉都として近時多數の内外人雲集する別府市では都市の繁榮と美觀は道路の改良を第一とすとのモットーを掲げて主要道路十三線の舗装を行ふに決した。其の總工費は十萬圓であつて先づ試験舗装として去る十七日正午から市役所前を大日本アスファルト工業會社の手で舗装したが好成績であるといふので愈々本格的に舗装工事に着手するに決した。

美化され行く大分市道

道路の改良は繁榮への第一策なりとして大分市を大友氏繁榮時代の昔に更生せしむべき協議は愈々熟して、市内電車道の舗装は新春櫻花咲く頃迄に完成する筈で、之れと共に西大分も内務省の別府大分國道改良事務所の手で人道と車道とを區別して舗装

することになつて居るから、既に舗装済みの竹町筋と共に漸次美化し、更らに西新町より名ヶ小路、細工町等も順次舗装の豫定である、經費に就ては縣より一萬三千圓を市側は一萬八千圓負擔、電鐵側三萬五千圓で計六萬六千圓といふことになつて居る。

九州縦斷廻遊道路計畫

英彦山振興會の高千穂男爵、橋本少將、毛利保太郎の諸氏は、筑豊觀光協會の上田委員長、小畝副委員長等と擬議中であつた九州縦斷廻遊道路問題が國立公園問題に關連するところから、別府溫泉振興會の平山市長、小野別府溫泉課長、株式會社油屋ホテル社長、久住耶馬阿蘇連絡觀光協會から平田貴族院議員、耶馬溪鐵道會社の小畝事務、山口同社監査役、日田久留米振興會では須藤町長、岩尾商工會長等の諸氏が協議の結果、英彦山、日田、耶馬溪、阿蘇、久住、別府、霧島等大九州國立公園の確立と連絡廻遊に適切なる道路網の必要を認め、

其の中心地に介在する久住郵便局の工藤局長并に渡邊町長が連絡機關に當り、又之れが輔導として我國地質學の權威たる脇水博士が英彦山、耶馬溪、深耶馬溪、別府溫泉日田盆地、阿蘇、久住、霧島等の實地に就て既に其の大半を踏破し、筑豊觀光協會の上田常任委員等が調査書の作製中であると云ふから遠からず具體的の計畫を見るに至るであらう。

鹿兒島の匡救事業進捗

大分宮崎熊本鹿兒島四縣下の時局匡救土木事業を實地視察した堀田内務事務官は以上四縣中鹿兒島縣が最も進捗して居り熊本は農耕關係で就勞が遅れて居るやうであるが、其れは此の事業の性質上農繁期に就勞を強いては折角の趣旨に副はぬと思ふゆへ熊本のように其の方針で農閑季に入りて十分救農の實を擧るやう榊井土木課長と種々打合を行つた。